

令和6年度 地域公共交通計画の評価結果 概要（全体）

## 福井市地域生活交通活性化会議 （福井市）

平成19年8月29日設置

令和6年3月 福井市地域公共交通計画策定  
（計画期間：令和6年4月～令和11年3月）

令和7年1月 令和6年度評価結果送付

評価対象の地域公共交通確保維持事業

- ・地域公共交通計画策定に関する任意評価（立候補）

# 1. 【Plan】 協議会等が目指す地域公共交通の姿

## 福井市の概要

面積：536.37km<sup>2</sup>

人口：254,220人(R6.12.1現在)

公共交通(R6.10.1現在)：○鉄道（北陸新幹線、ハピラインふくい、えちぜん鉄道福井鉄道、JR越美北線）

○路線バス（京福バス、福井鉄道、福井交通、ケイカン交通  
光タクシー：43路線）

○地域バス（美山、海岸、清水地域：7路線）

○地域コミュニティバス（酒生、日新、岡保、森田、東郷  
殿下、鷹巣・棗、鶉・宮ノ下・大安寺：8路線）

○地域の各種輸送資源（高須町、安居地区：2路線）

## 福井市地域公共交通計画の基本方針

「地域をつなぐ「全域交通ネットワーク」づくり」

～暮らしをつなぎ支えるモビリティ・ネットワークの構築～

方向性1：選択性のある都市交通利用環境の構築

方向性2：拠点への機能の集積とモビリティの改善による持続可能な地域の形成

方向性3：公共交通のシームレス化の推進

方向性4：新幹線開業に対応した公共交通の推進



## 【参考】令和6年度 福井市内公共交通トピックス

① 3月16日北陸新幹線福井延伸開業等による効果 8月末現在：交通事業者へのヒアリング、県内報道による

- ・ 路線バス売上 (R6.3~8)
  - 京福バス：前年同期比+29%、2019年同期比+23%
  - 福鉄バス：+18% +3%
- ・ 地域鉄道利用者数
  - えちぜん鉄道 (R6.3.16~8月末) : 前年同期比+27% (定期外+32%)
  - 福井鉄道 (R6.4~8月末) : 前年同期比△0.8%でほぼ横ばい
  - ハピラインふくい (R6.3.16~8月末) : 1日平均利用者2万1779人 (目標2万人を上回る)

6月大幅減便後もプラス維持

## ② 人手不足による市内路線バス大幅減便等とこれに対応するための緊急措置

## (ア) R6.6京福バス減便

実施内容：日中の間引き運行、夜間 (20:30以降) および土日祝の減便により同一市内路線の約32%を減便

計12系統	平日199便	⇒	110便 (89便減便)	
	土曜日156便	⇒	66便 (90便減便)	
	日祝123便	⇒	60便 (63便減便)	計242便減便

## (イ) R6.10福鉄バス廃線

実施内容：福浦線 (田原町-西田中・織田経由-かれい崎) が廃線  
 鯖浦線 (北鯖江駅~神明駅~織田~かれい崎) を高校前を通るルートへ一部変更するとともに、ハピラインとの接続ダイヤを見直すことで代替を図る。

## (ウ) 路線バス (茱崎線、清水織田線) 代替交通緊急確保

次ページの「目標達成に向けた公共交通に関する主な具体的取組」で説明

## ①路線バス(栞崎線、清水織田線) 代替交通緊急確保

方向性1 - 施策項目③ - 施策1)  
 方向性2 - 施策項目② - 施策1)

## 【概要】

路線バス2路線が10月に減便・廃線となり、利用者には、高等学校に通学する生徒がおり、2学期途中というタイミングとなることから、学校へ通う生徒達の移動確保に対し家族の負担を考慮すると、代替交通の確保が求められる。そのため他の路線バスに乗り継げる区間までを緊急的に市が運行することで利用者の移動手段を確保した。

○運行日:平日のみ(12/29~1/3を除く)

○運賃 : 無料

○便数 : 1日2便(朝1便、夕方1便)

## 【実施結果(12月末現在利用人数)】

栞崎線: 上り430人 6.9人/便、下り 64人 1.0人/便 計494人

清水織田線: 上り 96人 1.5人/便、下り193人 3.1人/便 計289人

## 【実施結果の考察】

代替交通確保後に地区の意見・要望を伺い、本年4月以降の運行方法を検討している。今後、減便等により交通弱者の移動に影響が出た場合は、適切な代替手段の確保を検討していく。



栞崎線代替交通



清水織田線代替交通

## ②公共交通を支えるバス運転士などの確保

## 方向性 1－施策項目⑤－施策 3)

## 【概要】

6月、10月に運転士不足による大幅な減便が行われ、運転士確保が課題となっているため、運輸支局、ハローワーク、県庁と連携し、路線バス運転体験会などの取組を行った。

## (1)兼業規定

10月から市職員による路線バス運転士業務の兼業について、内部部局と調整を行い、規定を整理した。

## (2)運転体験会 &amp; 会社説明会

①市職員退職予定者を対象に庁舎内において会社説明会開催(6月、7月)

②大型バス運転体験会 & 会社説明会を開催 (11月)

## 【実施結果】

(1)1人採用 (2)①15人参加、②12人参加

## 【実施結果の考察】

バス事業者によると、10月以降の大幅な運転士不足はないと聞いているが、運転士確保については事業者任せではなく、市としても関係機関等と連携して引き続き取り組んでいく。



消防局職員に会社説明会開催 (6月、7月)



大型バス運転体験会 & 会社説明会 (11月)

### ③乗合タクシー・デマンド交通及び地域の多様な輸送資源による足の確保(スクールバス、高齢者施設車両など)

方向性1－施策項目①－施策3)  
方向性1－施策項目③－施策3)  
方向性2－施策項目②－施策3)

#### 【概要】

乗合事業の成立が困難な過疎集落や、日中の路線バスの便が無い交通空白地等において、住民の共助により、特に高齢者の日常の移動手段を確保する。

#### (1) 自治会等輸送活動(高須町)

- ・市が多人乗車に適した車両(ワゴン車等)を購入し、高須町自治会に無償貸与する。
- ・自治会は、運行時間や運行経路の設定、運転手の確保、利用者からの予約の取りまとめ等を行い、自治会会員の日常生活に必要な輸送活動を実施。利用者はガソリン代のみ負担。

#### (2) 福祉車両活用輸送活動(安居地区)

- ・地区内にある高齢者施設所有の車両を使用し、高齢者の外出支援として週1回、無料でバスの運行を行う。
- ・市は輸送活動にかかる経費(消耗品費、印刷製本費、燃料費)を補助する。

#### 【実施結果】

- (1) R5年度:252人、60回運行 R6年度:209人、46回運行(11月末現在)  
(2) R5年度:250人、51日運行 R6年度:173人、35日運行(11月末現在)

#### 【実施結果の考察】

- (1) 1回当たりの乗車数がR5年度が4.2人、R6年度が4.5人となっており、安定的な利用に繋がっている。ただ、運転手の高齢化が進んでおり、事業継続の課題となっている。
- (2) 1日当たりの乗車数がR5年度、6年度がそれぞれ4.9人となっており、安定的な利用に繋がっている。バス運転手の確保が難しい中、介護事業者へ福祉車両活用輸送活動を周知するなど福祉部局とも連携を取りながら進めていく。

## ④フルデマンドタクシー導入及び利用促進

## 方向性3－施策項目②－施策2)

## 【概要】

福井市南東地区(4地区)で運行していた路線バスから利用者数の減少に伴い、車両をサイズダウンした乗合タクシーとなったが、更なる路線の効率化を図るため、フルデマンドタクシーとしてR3年度から運行を始めた。

## (1)利用方法研修会開催(6月)

運行地区住民からの要望で、利用登録方法、予約方法など交通事業者と研修を行った。

## (2)停留所新設

高齢化率が高い地区の要望で、高齢者宅に近い停留所の新設を行った。

## 【実施結果】

(1)25人参加 (2)R5年度:4カ所、R6年度:1カ所

## 【実施結果の考察】

(1)研修会参加前(5月)の利用登録者数は457人で、10月現在は488名と増加しているが、利用者数は減少(5月:314人、10月:276人)しているため、引き続き事業者と一緒に利用促進に努めていく。

(2)新設を行っているが、利用者数は伸びていないことから、運行地区全てに内容が分かるチラシの配布を行った。今後は、目的地として利用が多い商業施設にチラシを配布するほか、利用方法の研修などを継続して行っていく。併せて、交通の便が悪い地区でのフルデマンドタクシー導入を検討していく。

案内チラシ→

**福井市南東地区  
フルデマンドタクシー**

予約して乗りたい時間に乗ることができ、行きたいバス停まで直接行くことができるタクシーです。  
ぜひこの機会にご利用ください。

<b>運賃</b>	65歳以上高齢者 300円 →相乗りすると 200円 一般大人 600円 →相乗りすると 300円
<b>運行時間</b>	午前8時から午後5時
<b>運行曜日</b>	月曜日から土曜日 日曜、祝日、年末年始12/30～1/3は運休
<b>予約方法</b>	電話もしくはインターネット ※事前に利用登録が必要です。
<b>電話予約</b>	<b>0120-234-291</b> 受付時間：午前8時から午後4時 ※ご予約は乗車の1時間前までにお願います。 8時台のご乗車をご希望の場合は、前日の午後4時 までにご予約ください。
<b>インターネット予約</b>	Web予約サイトはこちらをご覧ください。→
<b>問い合わせ</b>	福井交通株式会社 0776-23-0108 最寄りの停留所位置圖もご覧ください。



⑤ふくいMaaSアプリの充実

方向性3－施策項目②－施策3)

【概要】

車に頼り過ぎない住みよいまちを目指し、公共交通やタクシー、自転車などの移動の利便性向上を目的とした「ふくいMaaSアプリ」を、北陸新幹線福井開業時にふくい嶺北連携中枢都市圏で導入した。

このアプリは日常利用だけでなく、観光的な利用も見据えた総合的なもので、すべての県民が持ちたくなるようなアプリとなるよう、嶺北11市町や交通事業者、民間事業者等、産学官のオール福井体制で取り組んでいる。

【実施結果】

ふくいMaaSデジタル切符販売枚数

R5年度(3.16～3.31):125枚、R6年度(10月末現在):1,147枚

【実施結果の考察】

販売枚数の伸び悩みについては、取組の認知度不足があることから、公式SNSやHPにおけるPRや地域イベントとの連携した取組を増やし、利用促進を図るとともに、利用者の意見を伺いながら使い勝手の良いアプリの構築に努めていく。

MaaSイメージ



ふくいMaaS冬キャンペーン



### 3. 【Check】 計画の目標の達成状況とその理由についての考察

#### (1) 地域公共交通計画全体の評価指標

1) バスの年間利用者数 (4月～3月)	目標値(R10)	計画策定(R4)	R5年度	R6年度(予想)	考察
路線バス	2,875,450人	2,480,809人	2,515,916人	2,460,000人	<p>・路線バスにおいては、R6年3月の北陸新幹線福井開業で「一乗谷東郷線」など一部の路線は利用者が増えているが、全体として利用者は6月以降減少している。</p> <p>・北陸新幹線福井開業で、県内外からの来街者の増加により、市内の観光地を周遊するすまいるバスの利用がR4年度と比べ、R5年度が約7%、R6年度が15%(予想)と増加している。</p>
すまいるバス	400,000人	303,663人	324,793人	350,000人	
地域コミバス	39,950人	35,933人	36,764人	39,000人	
地域バス	23,600人	20,553人	19,596人	20,000人	
合計	3,339,000人	2,840,958人	2,897,069人	2,869,000人	

2) バスの収支率	目標値(R10)	計画策定(R4)	R5年度	R6年度	考察
路線バス (10月～9月)	55.0%	42.5%	44.9%	45.6%	<p>R5年度は利用者が増加したことで経常収益が増加し、収支率が改善した。R6年度は利用者が減少したことで経常収益が減少したが、それ以上に経常費用の減少がそれを上回ったことで収支率が改善している。</p>
地域コミバス (10月～9月)	9.0%	7.2%	7.2%	6.7%	
地域バス (4月～3月)	3.0%	1.9%	2.0%	2.0%(予想)	
合計	52.0%	39.7%	41.9%	42.1%(予想)	

3) バスの経費に占める行政負担額の割合	目標値(R10)	計画策定(R4)	R5年度	R6年度	考察
路線バス (10月～9月)	23.0%	26.1%	23.8%	29.6%	<p>経常収益が増加したことで行政負担額が減少し、R5年度はバスの経費に占める行政負担額の割合が改善した。R6年度は減便の影響により、交通事業者のキロ単価が増加し、行政負担額が大幅に増加している。</p>
地域コミバス (10月～9月)	91.0%	92.8%	92.8%	93.3%	
地域バス (4月～3月)	99.0%	99.6%	99.6%	99.7%(予想)	
合計	28.0%	31.4%	29.3%	35.2%(予想)	

## (2) 施策パッケージの評価指標

	目標値(R10)	計画策定(R4)	R5年度	R6年度	考察
①フィーダー交通利用者数	163千人	129千人	128千人	127千人(予想)	乗合タクシーを統合したフルデマンドタクシーの利用が、R4年度と比べ、R5年度が約12%、R6年度が53%(予想)と増加している一方、乗合タクシーの利用が、R4年度と比べ、R5年度が約7%、R6年度が12%(予想)と減少しているため、増加していない。
②駅・主要バス停における待合環境新規整備数	毎年1件整備	2件	1件	1件(予想)	交通事業者、自治会等の取組みを継続して支援している。
③公共交通利用促進等に資する取組件数	15件/年	10件/年	19件/年	22件/年(予想)	地元の要望に応じて、交通事業者と連携し、停留所の新設、ダイヤ見直しなど利便性向上に努めたため、件数が増加した。
④デジタル企画切符の販売枚数	10,000枚	100枚	2,095枚	2,777枚(10月末現在)	取組の認知度不足の改善を図るため、公式SNSやHPにおけるPRや地域イベントとの連携した取組を増やし、利用促進を図るとともに、利用者の意見を伺いながら使い勝手の良いアプリの構築に努めていく。
⑤ICカード支払決済比率	70%	0%	34%(R6.3)	60%(R6.11)	・通勤通学利用がメインの路線では60%~70%前後のIC利用があるが、高齢者の方々や毎日の利用で無い方々に関しては未だに現金、回数券の利用が多い ・県がICカード利用者を対象に路線バスのIC半額キャンペーンや無料デーを実施したことにより、利用率がアップした。

## 4.【Act】 計画目標の達成に向けた今後の取組方針 の作成

計画目標の現在の到達点				今後の取組方針
1) バスの年間利用者数 (4月～3月)	目標値	未達成	未達成	<ul style="list-style-type: none"> <li>引き続きバス利用の周知活動を行うとともに、駅・主要バス停における待合環境の整備などを実施し、利用拡大に努める。</li> <li>減便による路線バスの運行本数減少に伴い、フィーダー交通との接続が悪くなった地区もあることから、利用者増加につながるようなダイヤ調整等を行い、利用者増加につなげる。</li> <li>路線の復便に繋がる運転士の確保についても引き続き実施する。</li> </ul>
	R10年度	R5年度	R6年度(予想)	
路線バス	2,875,450人	2,515,916人	2,460,000人	
すまいるバス	400,000人	324,793人	350,000人	
地域コミバス	39,950人	36,764人	39,000人	
地域バス	23,600人	19,596人	20,000人	
	3,339,000人	2,897,069人	2,869,000人	
計画目標の現在の到達点				今後の取組方針
2) バスの収支率	目標値	未達成	未達成	<ul style="list-style-type: none"> <li>引き続きバス利用の周知活動を行い、利用拡大に努め、収支率向上につなげる。</li> <li>運転士など公共交通を支える人材が不足する中、効率的な運行内容、運行形態への見直しを実施することで、コスト削減を図る。</li> </ul>
	R10年度	R5年度	R6年度(予想)	
路線バス(10月～9月)	55.0%	44.9%	45.6%	
地域コミバス(10月～9月)	9.0%	7.2%	6.7%	
地域バス(4月～3月)	3.0%	2.0%	2.0%(予想)	
	52.0%	41.9%	42.1%(予想)	
計画目標の現在の到達点				今後の取組方針
3) バスの経費に占める 行政負担額の割合	目標値	未達成	未達成	<ul style="list-style-type: none"> <li>引き続きバス利用の周知活動を行うとともに、駅・主要バス停における待合環境の整備などを実施し、利用拡大に努める。</li> <li>乗合タクシーを含めた地域バス、地域コミュニティバスにおける路線の統廃合など効率的な運行内容、運行形態への見直しを実施する。</li> </ul>
	R10年度	R5年度	R6年度(予想)	
路線バス(10月～9月)	23.0%	23.8%	29.6%	
地域コミバス(10月～9月)	91.0%	92.8%	93.3%	
地域バス(4月～3月)	99.0%	99.6%	99.7%(予想)	
	28.0%	29.3%	35.2%(予想)	

⇒計画策定時には想定していなかった路線廃止や減便が今年度は発生したが、持続可能な公共交通を維持していくため、引き続き市全体のバス路線を分析し、必要に応じて計画の見直しなども検討する。

## 5.直近2年間の二次評価の活用・対応状況

※直近2年間で二次評価を受けたことはありません。

## 6.計画・評価の推進体制

### (1) 計画の推進体制

計画の施策を推進するため、行政、学識経験者、交通事業者、市民等の、施策の実施主体で構成される「福井市地域生活交通活性化会議」によって協力体制を構築し、着実な施策展開を図ります。

また、戦略の策定や実施に関する協議等を行う既存組織である「福井市都市交通戦略協議会」と連携し、施策の進行管理、効果検証を実施するとともに、必要に応じて計画の見直しに取り組むものとしします。

### (2) 計画の進行管理

福井市地域公共交通計画は、施策の推進や定期的な計画見直しのため、福井市地域生活交通活性化会議のもとPDCAサイクルによる進行管理を行い、必要に応じて市民とのコミュニケーションを図り、目標の実現に向けて取り組みます。

PDCAサイクル(事業の計画「P」、事業の実施「D」、事業の評価・検証「C」、事業の見直し「A」)については、戦略の進行管理と連携して行います。

### (年間単位の進行管理、評価スケジュール)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
福井市地域生活交通活性化会議			1回目		2回目					3回目		
主な行事		地域公共交通計画の事業進捗報告				次年度予算要求			自己評価	二次評価		
実施すること	C 前年度利用実績の把握		A 改善策の検討・反映		P 次年度事業の検討			D 事業実施		C 今年度事業の検証		A 評価結果の共有
	C		A		P			D		C		A
	C		A		P			D		C		A
	C		A		P			D		C		A

## 交通会議の実施状況（令和5年度、6年度）

- 令和5年度 第1回（6月22日） 主な議題：路線バス（大学病院線、大和田丸岡線）の運行計画変更について
- 第2回（8月23日） 主な議題：清水山乗合タクシー線の運行計画変更について
- 第3回（10月12日） 主な議題：すまいるバスの運行計画変更について  
南東地区フルデマンドタクシーの停留所新設について
- 第4回（2月6日） 主な議題：中藤乗合タクシー線の運行計画変更について  
南東地区フルデマンドタクシーの停留所設置について
- 令和6年度 第1回（6月24日） 主な議題：福鉄バス（福浦線）の運行計画変更について
- 第2回（8月28日） 主な議題：京福バス（大安寺線ほか20路線）の運行計画変更について  
路線バス代替交通（茱崎線、清水織田線）緊急確保について
- 第3回（10月29日） 主な議題：すまいるバスの運行計画変更について
- 第4回（1月末または2月初旬予定）

<地域公共交通計画の評価等結果の様式>

福井市地域公共交通計画の評価等結果(令和6年4月～令和7年3月)

目標	目標を達成するための取組	調査方法	達成状況・分析	評価・次年度に向けた課題や取組	備考
バスの年間利用者数 2,840,958人(令和4年度)→ 3,339,000人(令和10年度)	・通勤通学時、日常生活における公共交通の利用促進、PR実施	バス事業者保有の乗降データにより毎年計測	・未達成(R5実績:2,897,069人、R6実績(予想):2,869,000人) ・路線バスにおいては、R6年3月の北陸新幹線福井開業で一乗谷朝倉氏遺跡観光のため「一乗谷東郷線」など一部の路線は利用者が増えているが、6月以降利用者は減少している。 ・北陸新幹線福井開業で、県内外からの来街者の増加により、市内の観光地を周遊するすまいるバスの利用がR4年度と比べ、R5年度が約7%、R6年度が15%(予想)と増加していると想定される。	・引き続きバス利用の周知活動を行い、駅・主要バス停における待合環境の整備など利用拡大に努める。 ・減便による路線バスの運行本数減少に伴い、フィーダー交通との接続が悪くなった地区もあることから、利用者増加につながるようなダイヤ調整等について検討、実施する。 ・運行本数が多い路線、通学利用が多い路線の復便に繋がる運転士の確保についても引き続き実施する。	
バスの収支率 39.7%(令和4年度)→52.0%(令和10年度)	・効率的な運行内容、運行形態への見直し	バス事業者の決算書により毎年計測	・未達成(R5実績:41.9%、R6実績(予想):42.1%) ・R5年度は利用者が増加したことで経常収益が増加し、収支率が改善している。R6年度は利用者が減少したことで経常収益が減少したが、それ以上に経常費用が減少したことで収支率が改善している。	・周知活動を行い、利用拡大に努め、収支率向上につなげる。 ・運転士など公共交通を支える人材が不足する中、効率的な運行内容、運行形態への見直しを実施することで、コスト削減を図る。	
バスの経費に占める行政負担額の割合 31.4%(令和4年度)→28.0%(令和10年度)	・効率的な運行内容、運行形態への見直し	バス事業者保有の乗降データ等により毎年計測	・未達成(R5実績:29.3%、R6実績(予想):35.2%) ・経常収益が増加したことで行政負担額が減少し、R5年度はバスの経費に占める行政負担額の割合が改善している。R6年度は減便の影響により、交通事業者のキロ単価が増加し、行政負担額が大幅に増加している。	・引き続きバス利用の周知活動を行い、駅・主要バス停における待合環境の整備など利用拡大に努める。 ・乗合タクシーを含めた地域バス、地域コミュニティバスにおける路線の統廃合など効率的な運行内容、運行形態への見直しを実施する。	
フィーダー交通利用者数 129千人(令和4年度)→163千人(令和10年度)	・通勤通学時、日常生活における公共交通の利用促進、PR実施	バス事業者保有の乗降データにより毎年計測	・未達成(R5実績:128千人、R6実績(予想):127千人) ・乗合タクシーを統合したフルデマンドタクシーの利用が、R4年度と比べ、R5年度が約12%、R6年度が53%(予想)と増加している一方、乗合タクシーの利用が、R4年度と比べ、R5年度が約7%、R6年度が12%(予想)と減少しているため、増加していない。	・引き続きバス利用の周知活動を行い、駅・主要バス停における待合環境の整備など利用拡大に努める。 ・乗合タクシーを含めた路線の統廃合など効率的な運行内容、運行形態への見直しを実施する必要がある。	
駅・主要バス停における待合環境 新規整備数 毎年1件整備	・駅やバスターミナル、再開発エリアのデジタルサイネージ設置検討 ・駅やバスターミナルなどの利用環境整備	福井市公共交通機関利用環境向上事業補助金交付要綱に基づく補助件数を毎年計測	・達成(R5実績:1件、R6実績(予想):1件) ・交通事業者、自治会等の取組を継続して支援している。	便利で快適な公共交通機関の利用環境の整備に係る交通事業者、企業、自治会等の主体的な取組み継続して支援する。	
公共交通利用促進等に資する取組件数 10件/年(令和4年度)→15件/年(令和10年度)	・商業施設とタイアップした公共交通利用促進策の実施 ・通勤通学時、日常生活における公共交通の利用促進、PR実施	取組件数を毎年計測	・達成(R5実績:19件/年、R6実績(予想):22件/年) ・地元の要望に応じて、交通事業者と連携し、停留所の新設、ダイヤ見直しなど利便性向上に努めたため、件数が増加した。	モビリティマネジメントとして、以下の事業を継続する。 ○出前講座実施 ○カーセーブ運動実施 ○NPO作成公共交通マップの学生への配布 ○カーフリーデーふくいへの参加	
デジタル企画切符の販売枚数 100枚(令和4年度)→10,000枚(令和10年度)	・ふくいMaaSアプリの充実 ・観光客に魅力的なデジタル企画切符の造成	デジタル企画切符の販売枚数を毎年計測	・未達成(R5実績:2,095枚、R6実績(R6.10月末まで):2,777枚) ・取組の認知度不足の改善を図るため、公式SNSやHPにおけるPRや地域イベントとの連携した取組を増やし、利用促進を図るとともに、利用者の意見を伺いながら使い勝手の良いアプリの構築に努めていく。	嶺北11市町の地域イベントと連携した切符や、きっぷ購入者向けの特典の検討や実施に取組む。また、ふくいMaaSアプリはふくいアプリの一サービスであるため、ふくいアプリの機能(例:スタンプラリー機能)との連携についても検討し、利用促進を図る。	
ICカード支払決済比率 0%(令和4年度)→70%(令和10年度)	・交通系ICカードの利用促進・周知 ・フィーダー交通における交通系ICカード導入検討	バス事業者保有の決算書により毎年計測	・未達成(R5実績:34%(3月末)、R6実績(11月末):60%) ・通勤通学利用がメインの路線では60%～70%前後のIC利用があるが、高齢者の方々や毎日の利用で無い方々に関しては未だに現金、回数券の利用が多い。 ・県のIC半額キャンペーンや無料デーを実施したことで利用率アップに貢献している。	・通勤通学時、高齢者の外出時に利用してもらえるよう、出前講座などで交通系ICカードの周知を図る。 ・市内路線バス以外の地域コミュニティバス、地域バス等についても、キャッシュレス化を進めるため、交通系ICカードの導入を検討する。	

(記載に当たっての留意事項)

- ・本様式中、表題の「(〇年〇月～〇年〇月)」の部分には、評価等の対象となる期間を記入してください。
- ・毎年度の評価になじまないような目標や、数年おきの評価を予定している目標については、「備考」の欄にその旨を明記の上、「目標」及び「備考」の欄以外は「-」と記載して下さい。
- ・一つの目標と複数の取組が対応している場合や、複数の目標と一つの取組が対応している場合には、適宜欄を修正の上、記載を行ってください。
- ・月ごとの利用者数の推移等の詳細データや、地域公共交通計画の評価等に係る協議会における議論の結果(議事録等)等の関連資料がある場合には、併せて添付して下さい。
- ・地方公共団体・協議会等において独自に作成している評価等の様式が既にある場合や、地域公共交通確保維持改善事業に関する事業評価を行った報告様式がある場合には、参考資料として添付して下さい。